

「心のケア・新しい大船渡」 相模女子大学復興支援学生ボランティア委員会

岩手県大船渡市との出会い...

2011.3.11 東日本大震災で、私たちの先輩は「自分たちにも何かできるはず」と考え、被災地支援のアクションをスタートしました。大学が所在する神奈川県相模原市の友好都市「岩手県大船渡市」を6月、12月に訪問し、避難所で炊き出しを行いました。



現地が必要としていること...

震災以降、継続している人とのつながりを大事にしたい。いつまでも被災地のことを忘れないでほしい。



私たちが感じたこと...

2回の炊き出しを通じて感じたのは、継続的な支援の必要性和、心のつながりの大切さでした。

2012年8月 被災地支援学生ボランティア委員会発足 ※後に「復興支援学生ボランティア委員会」に改称

学生有志(13名)で学生ボランティア委員会を発足。委員会の活動の柱を「心のケア」と定め、炊き出しの時に訪問した仮設住宅の方々と交流をスタートしました。

被災者に寄り添った心のケア



2012年

2013年

2014年

2015年

2016年

被災者の心をケアする活動(年2~3回、2つの仮設住宅を訪問し、住民の方々と交流する)

《手や体を動かしながら、お話をしましょう》

花植え活動、小物づくり、盆踊り
ミニさんままつり、郷土料理
お茶っこの会



《人に言えない心の中を俳句で表現してほしい》

俳句会「あった会」の開催
お茶っこの会
俳句の展示会(大船渡市内)



大船渡を伝える活動(大船渡市の復興状況取材して、多くの方に現状を伝える)

《大船渡や東北の被災地のことを、時がたっても忘れないためのきっかけづくり》

「大船渡の今を伝える展示会」開催(1回/年、相模原市)
大船渡市長への表敬訪問&活動報告(2回/年、大船渡市)
大船渡の味を伝える(2回/年、相模原市)
・相模大野もんじえ祭に出店して大船渡のグルメを販売
・大船渡直送のサンマを炭火で焼いて大学祭で販売
復興伝承杭「みらいんや」の設置、復興状況の撮影支援(大船渡津波伝承館と連携)
講演会開催(2012年「津波のこどもたち」、2013年「外国人記者がみた3.11」)
出前講座の実施(2015年相模原市立緑が丘中学校(1,2年生)に震災学習)
「新しい東北を創る人々 若者DAY(復興庁主催)」に参加し、委員会の活動を報告



大船渡の復興を支援する活動(大船渡市特産品の活用や地域の活性化を支援する)

《「新しい大船渡」をキャッチフレーズに、地域資源を活用した地域活性化を支援》

森下水産(株)との商品開発(2013年~開発した海鮮キッシュを安倍首相が試食)
鎌田水産(株)との商品開発(2015年~ほたてのひもを活用した商品開発中)
大船渡市との連携事業(2015年~椿プロジェクトの支援、保育園で椿学習実施)
「大船渡伝承市場」を開催し、特産品や椿関連グッズを紹介・販売



活動の結果...

市街地の復興が進み、仮設住宅から復興住宅への移転が始まっているが、俳句を通じた交流を続けることで、「心の繋がり」を維持することができている。活動を続けてきたことで、地元から信頼され、震災時よりも多くの活動を任せてもらっている。



地域からの期待...

訪問するボランティアの数が激減している。被災地での復興は進んでいるが、「心の復興」はまだこれから。復興住宅への転居で寂しい想いをしている方がいるので、「心のケア」活動は継続してほしい。地域の活性化にはこれからも学生の力が必要。

今後、必要とされる支援とは...(今後の活動方針)

心のケア... 活動拠点を公民館や商業施設に移し、俳句活動を継続することで地域の心の繋がりづくりをお手伝いする。
大船渡を伝える... 大船渡の現状を伝える出前講座やグルメ紹介などを通じて若い世代に大船渡の魅力を伝える。
地域の活性化... 復興だけでなく、地域の特色を活かした「新しい大船渡」の実現を目指して地域活性化を支援する。